

第 4 回図書館基本計画策定委員会 議事要録

日 時 平成 30 年 6 月 26 日（火） 17 時 30 分開会 19 時 30 分閉会

場 所 中央図書館 3 階視聴覚ホール

出席者 委員 8 名

赤羽委員、大津委員、桂委員、金子委員、北本委員、福島委員、船崎委員、松山委員

事務局 12 名

鎌田図書館長、目澤武蔵野プレイス副館長、柏倉吉祥寺図書館長、
加藤課長補佐、前田課長補佐、森本課長補佐、秋庭係長、佐々木主事、須藤主事
岩崎主任
山名様、高橋様（文化科学研究所）

内 容 1 議事

（1）前回議事録の確認について（資料 1）

（2）前回ワークショップまとめについて（資料 2-1、2-2）

2 報告事項

3 その他

配布資料 次第

第 3 回図書館基本計画策定委員会 議事要録（資料 1）

第 3 回ワークショップにおける付箋の一覧（資料 2-1）

前回ワークショップのまとめについて（資料 2-2）

【事務局】

定刻となったので開会する。

本委員会は傍聴基準に基づき公開しているので、希望者があれば傍聴していただくことになる。よろしくお願ひしたい。本日については、現時点では傍聴希望者はいない。

次に資料を確認する。資料が不足している場合は申し出ていただきたい。

このあとは議事となるので、委員長に進行をお願いする。

【委員長】

承知した。

まずは事務局から、議事録について説明を。

★議事（1） 前回議事録の確認について

【図書館長】

資料 1 をお願ひしたい。

事前に送付しているが、前回委員会の議論を取りまとめた。

委員から修正依頼があったので、修正箇所がわかるようにしたものを本日配布している。この内容で確認・承認をいただければ、終了後に公開したい。

【委員】

自分の発言の部分で意図が伝わりにくい恐れがあったので修正を依頼した。

【委員長】

本件について、何かあったら意見、質問を。

(意見なし)

次の議題に移る。事務局より説明を。

★議事（２） 計画で考慮すべき課題等について

【図書館長】

前回のワークショップで付箋に書かれた意見を表にまとめたものが資料２-１で、これを整理しイメージ化したものが２-２である。

２-２では、大項目、小項目ごとに意見をまとめて分かりやすいように図とし、その下に多く出された意見とコメントを整理した。Ｐ６～Ｐ７には論点をまとめている。

また、今回の策定委員会では、図書館の将来像についても議論をいただきたいので、最後のページに前期計画における「武蔵野市立図書館の目指すべき将来像」を参考までに添付した。

★１．レファレンスサービス・地域課題解決支援

【委員長】

まず、「１．レファレンスサービス・地域課題解決支援」について、何かあったら意見を。

【委員】

図書館にはスタッフが多く、どの人が司書かわからない。司書は名札をカラーにするなど、一目で分かるようにしてほしい。

司書とは、専門的な知識を持っている人と認識している。アルバイトやボランティアの人に、レファレンスの問い合わせなど専門的なことを聞くのは気の毒なので、どの人が司書かわかれば質問しやすい。

【図書館長】

図書館側としては、何かあればスタッフ誰にでも気軽に声を掛けてほしい、と考えている。声をかけられたスタッフが対応できない場合は、分かる者に引き継ぐようにしている。

名札の表示の工夫については、将来的に可能であれば考えていきたいが、現在のところは「司書」と表示するのは難しい。

【事務局】

ちなみに、アルバイトは窓口業務は行っていない。

【委員】

別の人の体験談だが、レファレンスについてスタッフに質問したら「分からない」とあっさり断られ、別の人に質問したら、丁寧に調べて他の図書館から取り寄せてくれたとのこと。こういった例があるので、初めから「対応が可能な人」に声をかけるほうがよいのではないかと考えたからである。

【事務局】

武蔵野市のレファレンスは、チームプレイを基本としている。レファレンス記録票があり、カウンターで質問を受けたスタッフがまず調べて、分からない場合は引き継いでいく形になっている。

【図書館長】

先ほどの委員の意見について、市立図書館で、もしチーム制による対応ができていないとしたら申し訳ない。そういった場合は、ご指摘いただければありがたい。

【委員長】

他には。

【委員】

前回出されたいろいろな意見に対して、図書館側としての、「それは無理」「取り組んでみたいと思っている」等の考えを聞きたい。前回に委員から出た意見を整理し、わかりやすい図にもしていただいたが、これを計画に全部載せるということではないだろう。図書館側はこれを受けてどう考えているか。

【委員】

私もそれが聞きたい。

【図書館長】

今日のこの資料は、委員の皆様が基本計画に向けて、この項目は内容をふくらませよう、ここは集約しよう等、議論のタネにしてもらえればとの意図で整理したものである。ご提案の全てを基本計画に反映できるかは検討が必要になるが、現時点で図書館として「これはできる」「できない」等と言うのは、議論を展開していただく上で差し障りがあると思う。

【委員】

前回の委員会の後、メールで追加の意見を提出したが、武蔵野市にゆかりのある作家などを積極的に取り上げるとよいと思う。三鷹では、地域にゆかりのある太宰治や山本有三などを取

り上げている。武蔵野市は、ゆかりのある作家が多すぎてセレクトするのが難しいかもしれないが、展示コーナーで取り上げるとよい。

加えて、グループ読書会を他の人に広げたいと考える。前回「家読」の話題が出たが、一人で読む「孤読」に加えて、グループ読書の「グル読」もどうか。ぜひ勧めてほしい。

【委員】

「レファレンス能力の強化」にある『ハイレベルなオンラインDB導入』、「レファレンスPR」にある『レファレンスを体験するイベント』は、どちらも行うべきと思う。

まず、オンラインデータベースについては、認知度が低く知っていても上手に使いこなせない人が多い。データベースを導入するだけでなく、実際に使えるようにしていく、利用者につないでいくことが大切と考える。例えば大阪市立図書館では、来館する、データベースを使う等でポイントが貯まる仕組みを導入し、楽しんで図書館の多くのサービスを使う工夫をしている。同様に、データベースについても、クイズや検索による発見などを体験させることで利用を促進している。

次に、「レファレンス体験」もいい意見だと思った。図書館らしいサービスを実際に体験してもらい、図書館を使ってみようと思ってもらえるような働きかけが必要であろう。

図書館側から市民の皆さんに近づいていくような工夫、一歩踏み出す、というようなワードが、基本計画の将来像にも反映されればよいと思う。

【委員長】

資料2-2の8ページの下の方に「前期計画の目指すべき将来像についての評価」「目指すべき将来像変更の必要性は」のところで、議論のテーマとなることが記載されている。こういった点を念頭に置きながら、今日の議論を進めていければと思う。

前回計画の「将来像」にある大きな4つの柱への新たな肉付けなど、話しているうちに新しい基本計画の骨格が出てくるようにしたい。

【委員】

図書館は、実はいい事業をたくさんしている。読書の動機付け50年や、大型の活字本を老人ホームに貸し出していることなど、この委員会に出席して初めて知った。市民であっても知らないことがたくさんある。図書館はもっともっとPRをするべき。

もう一点、レファレンスのところで、『司書が専門家として育つ環境に』とあるが、これはとても大事なことと思う。利用者と資料をつないでくれるのは司書の方。きちんと育成して司書の仕事を継続していただきたい。

【委員】

市内に新しいマンションが建設され、第一子が学齢期というファミリー層の入居が多くみられる。これからの10年間は小中高生が増加すると予想されており、子どもの頃から図書館に親しめる活動を、今後も大切にしてもらえると有難いと思う。

子ども図書館文芸賞は、学校で10年間行なっていて図書館に移った事業であるが、良い移行

であったと感じている。このように、連携していける取り組みも大切と思う。

また、今後、中高生が増えてくるなかで、武蔵野プレイスのような若者の居場所がプレイス一ヶ所で大丈夫か、それも気にかかるところである。

【委員】

資料2-2の「4. ワークショップで出てきた論点」の最初に挙がっているが、ある分野に特に詳しく司書の仕事もできるサブジェクト・ライブラリアンは、大学図書館などには稀にいますが、公共図書館にはほとんどいない。こういった司書がいるというのは、武蔵野市立図書館の特色として打ち出せるのではないだろうか。先ほども話題に出たが、「特にこの分野については聞いてください」「地域史に詳しいです」など、名札に加えられるようになったら、いいスパイラルが生まれるであろう。

ただし、これをどのようにして実現するかは、なかなか大変なこととは思う。

【委員】

デジタル化が進んでいるが、図書館にはデジタル関連の古い本も新しい本もあり、どれを使えばいいのかわからない。選び方をサポートしてもらえれば助かる。

【事務局】

この「1. レファレンスサービス・地域課題解決支援」について、本日欠席の委員から意見が届いているので、読み上げさせていただく。

司書が身につけるべき専門性について。「明確に学位を要求するのは一案であると考えます。一定のキャリアを積んだ司書には図書館情報学修士号（MLS）、さらにできれば何らかの専門分野での修士号の取得を求め、市としてもそのようなキャリア形成を支援してく具体的な取り組みが必要と考えます（例：学費の一定範囲での援助、社会人大学院通学への勤務上での配慮等）。」

地域課題解決について。「優先順位という意味では総合計画や教育大綱が示す課題に沿うのが基本的には順当であると考えます。同時に課題解決の前提となる課題発見について、職員一人ひとりに課題研究的な調査業務を必須とし、常に地域課題を探究する仕組みが求められるのではないかと。」

★2. 図書館が行うべきデジタルサービス

【委員長】

次に、「2. 図書館が行うべきデジタルサービス」について。

外部データベースの話が出ているが、現在、図書館では、外部データベースはどの程度活用されているのか。

【事務局】

新聞社系のデータベースやヨミダス歴史館など、かなり利用されている。

【委員長】

市民から「こういったデータベースを導入してほしい」などの要望はあるか。

【事務局】

そういった要望は、特に出ていない。

【委員】

市立図書館のコンテンツとすぐにわかるような見せ方や、PRに上手にデジタルを活用する等は、前期計画のなかでうまく取り組めなかった点のように思う。

前期計画の「目指すべき将来像」ではデジタルに全く触れていないが、時代に合わせて変更することが可能であれば、今回の基本計画では触れる方がよい。基本計画の中にきちんと文言として位置づけていないと、評価や目標にも入ってこない。

いま図書館が取り組んでいる事業をベースに、せっかくならPRしよう、公開しようと、前向きにデジタルと取り組む。活動をいかにデジタルにつなげられるかを常に意識することが大切と思う。

【委員長】

確かに、前回計画の「目指すべき将来像」では、デジタルに全く触れていない。今回の計画では、電子図書とは切り分けて、この点に触れる方がよいと思うが、意見は。

【委員】

市立図書館は、センスがあって内容も高度な取り組みをたくさんしているのに、市民の多くにその情報が届いていない。非常にもったいない。知っていたら行きたかった、というケースは多いと思う。

デジタルとはつまり「便利にしていくこと」だと考える。その具体的な方策として、例えばメルマガもある。情報が欲しいと思っている人に、図書館員がやりやすい便利な方法で、確実に情報を届けていくことが大事ではないか。具体策を出して練り込んでいく方がいいのではと思う。

【委員】

月2回発行される武蔵野市の広報は、情報量が多すぎて読むのが大変。武蔵野プレイスでカズオ・イシグロの翻訳で有名な土屋政雄さんによる講演会が開催されるが、その情報を知らなかったという人もたくさんいるのではないか。広報紙でさえそうだから、ウェブサイトはさらにではないか。

【事務局】

欠席した委員からのこの項目に関する意見を読み上げる。

「今回の大阪地震等を想うと、9.11の際にニューヨーク公共図書館が閉館しながらもウェブで積極的な情報発信を行ったことが思い出される。このような非常時にこそ情報の力を実感さ

せる取り組みに常時あたれるような体制構築が求められるのではないか。」

【委員】

今のウェブサイトのシステムだと、緊急時にも図書館側が書き込むのは難しいのか。

【図書館長】

そういったときは災害体制になるので、図書館には別の役割が出てくる可能性がある。

★3. 複本、市民・市外サービス

【委員】

前に戻るが、最近、ふるさと歴史館が色々な企画を展開している。これは、図書館がサポートしているのか。

【事務局】

必要な資料は図書館から貸し出している。

【委員長】

3の部分について、欠席している委員からの意見はあるか。

【事務局】

意見を読み上げる。まず、複本について。

「蔵書という観点では一般には手が出にくい専門書を極力買い揃えることが望ましいと考えます。大学卒業後、武蔵野市に住み続けた経験からすると、大学図書館を利用しなくなった、あるいはできなくなった卒業生が武蔵野市に住み続けるうえで、公共図書館が一定の専門性を有した文化機関であることは大きな魅力であると考えます。」

市民とそれ以外の人へのサービス差別化について。

「近隣都市との助け合いは重視しつつも、最終的には武蔵野市としての人口政策や定住政策との関係性に基づく位置づけが必要と考えます。」

【委員】

市民と市民以外のサービス差別化について、三鷹市は市外の方はリクエストができなくなっており、武蔵野市と同じく差別化されている。

【委員】

資料2-2で「理想は差別なし」とあるが、大阪市立図書館では、関西圏で図書の返却が可能な地域の方は誰でも図書館カードを作ることができる。図書館カードがあれば、オンラインデータベースやナクソス・ミュージック・ライブラリーなども電子図書館として外部から利用できる。

武蔵野市でも、もし市民と市外のサービス差別化の目的のひとつが混雑緩和にあるのなら、

デジタルでの利用も含めて考えてはどうか。

【委員】

差別なしというのが理想だとは思う。なぜサービス差別化の検討が必要か、市民にどれだけ影響が出ているか、図書館側としてどう認識しているか。

【図書館長】

具体的に証拠を出すのは難しいが、予約サービスは市民・市外が横並びなので、市民に順番が回ってくるのが遅いという実態はある。また、武蔵野プレイスでは、市民なのに座席がなくて座れないという意見がよく聞かれる。吉祥寺図書館はさらに座席数が少ないので、今後、利用が増えると同様の問題が起きる可能性がある。

【委員長】

武蔵野プレイスでは、市民からも意見が出ているか。

【事務局】

利用したいのに席がないという声が聞かれる。

【委員】

武蔵野プレイスにある市民活動情報コーナーは、市民の登録団体なら使うことができる。その意味では、市民に便宜を図っているといえる。

【図書館長】

市民専用の閲覧席を設けるとすると、どうやって市民を見分けるのかなど運用が難しい面があり、悩ましい。

【委員】

市民委員の皆さんは市民専用席についてどう思うか。

【委員】

私は三鷹市の図書館をもっぱら使っており助かっているので、武蔵野市がそういうことをすると肩身が狭くなり、望ましくない。

【図書館長】

サービス差別化の問題は複本問題とも関係している。市民・市外利用者とも予約できるという今のサービス形態のまま複本を減らすと、市民に順番が回ってくるのがさらに遅くなる。複本と市内外のサービス差別化問題はセットという面がある。

【委員】

システムの可能なら、例えば予約が 100 人を超えた本は、連絡があってから借りにくるまでの期間を短くする、貸出期間を 2 週間から 1 週間に変更するなどができればよい。複本と貸出期間でバランスを取りながら考える。一方で、予約が入っている本を期限が過ぎても返却しない人がいるのも問題だ。

【委員】

ベストセラーなど特定の本に限り「予約できるのは市民だけ」ということはできるのか。

【図書館長】

「この本は OK、この本はダメ」というのは難しい。

【委員】

本屋大賞を受賞した『かがみの孤城』などは、いま、予約待ちが 500 番くらいになっているはず。100 人待ちでも順番が回ってくるまでに 2～3 年はかかる。

【委員】

ベストセラー本については、貸出期間を短縮するというのは一つの方法と思う。

【委員】

それにはシステム上の対応が必要なのだろうが、もし可能になれば、状況は若干改善するのではないか。

また、なかに待ちきれなくて買って、読み終わった後に図書館に寄贈したいという人もいるかもしれない。そういう場合は、どうなるのか。

【図書館長】

図書館として、読み終わったベストセラーを寄贈してくださいと呼びかけるのも、出版業界との関係で差し障りがあるように思う。

【委員】

寄贈本も選書基準を設けており、何でも受け入れているわけではない。また、個別に 1 冊ずつの寄贈を受け入れるのは、逆に経費がかかる可能性がある。

【委員】

伊丹市立図書館ことば蔵は市民が運営参加しているので有名だが、ここにカエボンといって、自分がお勧めしたい本にコメントをつけて棚におき、借りた人はコメントをつけて返す、という仕組みがある。こういった仕組みも参考になるのではないか。

【委員】

コミュニティセンターでそういった仕組みに取り組めると良いと思う。これまでコミセンに来ていなかった層の利用促進にも結びつくのではないかな。

【委員長】

P8の「前期計画における将来像」を踏まえて、次期計画の方向性として浮かび上がるものがあるかな。

【委員】

グループ読書会を広める、という点を加えてほしい。

【委員】

それは、「将来像」という大きい部分ではなく、もう少し個別の計画部分で記載する方がよいのでは。

【委員】

図書館は、利用料金を取るなどは可能かな。

【図書館長】

図書館法に「公立図書館は、入館料その他図書館資料の利用に対するいかなる対価をも徴収してはならない。」とあるので、これまで、その視点での検討は行っていない。講座などで資料代実費を徴収することもあるが、武蔵野市ではまだあまり行なっていないので、そこは検討が必要かもしれない。

【委員】

以前の委員会で、図書館は情報システム整備費が高く、他のところに費用をかけるのが難しいといったお話があった。図書館の一部を貸出して家賃収入を得るなど、収入が入る仕組みは考えられないかな。

【図書館長】

武蔵野プレイスは開館当初からカフェの入居により賃料収入を得ている。中央図書館については空いたスペースがないので、図書館としての機能を削減してカフェを入れるといった発想は今のところはないが、ハードをリニューアルする際には一つの選択肢となるかもしれない。

【事務局】

図書館で発行している「図書館カレンダー」などに広告の導入をすすめている。職員で工夫して必要な情報量はキープした上で、地元の企業に広告を載せて頂き、ホームページにも広告を出している。

【委員】

その広告収入は図書館で使えるのか。

【事務局】

図書館として使うわけではないが、そのぶん支出が減るので、市全体の財布としては軽減される。

【委員】

今後、学校教育にプログラミングが加わり、授業で子どもたちがプログラミング、ゲーム、コンテンツ、デザインなどを作る時代となる。一方で、スマートフォンでも何でもできるので、大きい画面のパソコンでじっくり何かを作ってみる、学ぶなどの機会は学校に限られてくるのではないか。その意味では、図書館にもコンピュータに触れられる学習環境は必要になるのではと思う。大きい画面を使わないとわからないこともある。

【委員】

前回出た「情報発信の中継点」という言葉が非常に印象に残っている。前期計画の中にも「人々が交流し文化を創造する地域拠点としての図書館」とあるが、「つながる」というのもひとつのキーワードではないか。図書館の基本的な機能として人、資料、本などをつないでいくことがある。レフェラルサービスなどもまさにそういうこと。それは、拠点というより中継点という方がしっくりくる。

【委員】

10年後の図書館の理想像・大きい目標として「人と情報のつながりを育む（育てる）図書館」という言葉を考えてきた。

武蔵野市立図書館3館に来られない人に向けて、図書館の方から手を伸ばすのはどうか。コミセンや学校図書館などにデリバリーする、情報を発信するなど。また、物の拡散だけではなく、デジタルのサービスもできると良い。大きな活動の周りをいろいろな小さなサービスが囲む、といったイメージである。

【委員】

三鷹市に井の頭コミュニティ・センター図書室という施設があり、地区の住民協議会が管理・運営している。地域の住民しか予約できず、直接図書館に行かないと借りられない。コミセンと連携した図書室の事例として参考になると思う。

【委員】

前回も図書のデリバリーなどを提案してきたが、マンパワーが足りずできないこともあると思う。そのため、これからの時代背景を鑑みて、図書館職員でなくてもできる仕事は高齢の方をお願いするのはどうだろうか。古いムーバスを活用して移動図書館のようなものを作り、そういったボランティアの方に運転をお願いするといったことも考えられる。

長期的な視点できちんと教育プログラムも考えて募集し、1～2年かけて図書係のような感じでうまく巻き込んでいながら、地域とつながるためのサポートなどをお願いする。高齢の方にとっても、生活リズムができる、運動にもなるなどメリットがあると思う。

【図書館長】

いいご提案と思うが、双方ウィンウィンになるには、いろいろなハードルを乗り越える必要があるかもしれない。

【委員】

近年、定年が伸びて働く期間が長いので、退職後はゆっくりしたいということで、シルバー人材センターへの応募者が減っていると耳にしたことがある。ただ、図書館の仕事には興味を持つ人は多そうなので、タイアップするとよいかもしれない。

【委員長】

議論はここまでとし、事務局には、本日出た意見のとりまとめをお願いしたい。
次に報告事項に移る。事務局から説明を。

★2. 報告事項

【図書館長】

9月に開催を予定しているシンポジウムについて現状案をお示ししたい。開催日は9/8(土)14時から。基調講演40～45分、パネルディスカッション、質疑応答という流れを考えている。基調講演は岡本委員に依頼し内諾をいただいた。パネルディスカッションについては、コーディネーターは委員長をお願いしたい。パネラーは5名程度として、岡本委員はそのまま入り、さらに学識経験者ということで松山委員、桂委員。行政から竹内教育長が入る予定。もう1名は、男女のバランスも考えて、女性の市民委員から1名入っていただければと思う。ご検討いただきたい。

【委員長】

本件について意見、質問はあるか。

(意見なし)

では、事務局で詳細を詰めて、次回以降に進展があれば報告してほしい。
次に「その他」について、事務局から説明を。

★3. その他

【事務局】

次回の日程は8/2(木)16時から。会場は武蔵野プレイス。最初に館内見学とプレイスの事業説明を受け、その後に運営委員会、策定委員会という流れを考えている。

【委員】

10月以降の委員会日程が未定なので、いま決めてはどうか。

～日程調整～

【委員長】

10月は1日2日のいずれか。11月は6日13日のいずれか。本日欠席している委員の日程も含めて調整し、事務局から改めて連絡する。

その他、何かあるか。

(特になし)

以上で第4回図書館基本計画策定委員会を閉会する。